

Contents

HIV診療を開業クリニックで.....	1
ふれいす東京 第7回総会・活動報告会	2
アースデイ	3
ネストより	5
NLGR	5
活動報告(2007年4~6月).....	6

「HIV診療を開業クリニックで」

根岸 昌功

HIV診療のできるクリニック「ねぎし内科診療所」は2007年2月2日から診療を始めました。

この診療所の目指すところは次の四つです。

- 1 就業、就学を妨げない曜日・時間帯に診療を行う。
- 2 拠点病院と診療所との連携を図り、そのあり方のサンプルを作る。
- 3 地域の一般診療と感染症(HIV感染症を含む)診療とを行い、地域の人々に感染症診療を広く理解してもらう。
- 4 地域活動、NGOと連携をしてそのあり方のサンプルを作る。

これらの目標達成を目指して、診療と活動を始めています。診療面では思ったより日曜日の受診が多くなく、急に具合が悪くなった方の受診が少数ある程度で、HIV感染者の受診はむしろ金、土、月曜日のほうが多くなっています。また、「拠点病院」では、駒込病院、日大病院、順天堂病院、横浜市民病院、慶応大学病院、東京女子医大病院との連携例がありました。心療内科の受診例もあり、そのうち何例かは精神科を紹介する必要がありました。

当院は「自立支援医療機関」の指定を受け、「生活保護法」の指定医療機関となり、各種保険診療も担当しています。

高血圧、高脂血症、風邪、胃腸炎、上気道炎の受診者も少しずつ増えています。待合室にある各種感染症とHIV感染症の資料やパンフレットをもの珍しげに見ている姿があります。

一般内科の診療とHIV感染症の診療をしていて、HIV感染症の診療が、風邪や急性胃腸炎や高血圧と同じように普通に行われる診療であり、そしてどの患者さんにとっても、その人の病気は特別なものと思っておられることをあらためて感じています。医師として納得の行く医療をしていきたいと思っています。そのためにはどのような不条理、困難と矛盾

があるのかを肌で感じ、解決に向けてもがいていくつもりです。

四谷地区に住んでおられる南定四郎さんと、健康増進と医療情報の学習と親睦を目的に「千の風倶楽部」を立ち上げ、第一回「ダウンの娘とともに生きる」、第二回「写真で語る里山の話」の談話会を開きました。いずれもある意味深刻な状況を扱っていますが、新たな視点をくれるとても愉快的な談話会でした。第三回は根岸が「性感染症の話」をしました。

ねぎし内科診療所のスタッフは、医師の根岸昌功、相談員・事務局長の野田和子、看護師の河村祐貴子、事務員の四人です。おのおのが好奇心旺盛で、面白い感受性を持っています。今後興味深い経験を、もがき、楽しみ、考え、何かを創造していくと確信しています。

診療所には、診察室が二つ、処置室、採血室、待合ホール、多目的室、レントゲン室、事務室、スタッフルームがそれぞれひとつあります。多目的室(研修室)は診療所では一番大きな部屋で、待合室として使用するほか、集会室として利用しています。どなたでも参加できる雰囲気を作ろうと苦心しています。ぜひ一度見物にいらしてください。

ねぎし内科診療所のご案内

東京都新宿区四谷三丁目9番地 光明堂ビル5階

電話 03-5369-2041

(営団地下鉄丸の内線「四谷三丁目」駅、一番出口から10メートル、ドトールコーヒーと丸正スーパーの間、光明堂ビルの5階です。)

診療科目 「内科」「心療内科」

診療時間 毎週、金・土・日・月曜日 13時30分-19時30分

* HIV抗体の即日検査も始めました。

ぶれいす東京 第7回総会・活動報告会

5月26日、豊島区生活産業プラザにて、特定非営利活動法人ぶれいす東京の総会・活動報告会が開催されました。総会に引き続き行われた活動報告会では、十数名が報告、63名が参加して、今年も活気溢れる会となりました。

ぶれいす東京の総会と活動報告会が今年も開催されました。

総会では、この報告をもって勇退となる橋本研吉さんより、2006年度会計報告が行われました。10年に及ぶ会計担当者としての重責を全うしての最後の報告です。いつものように端



新旧の経理担当のバトンタッチ

的にまとめられた収支と財務の報告に添えて、「非営利活動の最も大きな財産は人と知恵」とお話されたのが印象的で、非営利団体の会計担当の難しさと同時に、その意義を示していただいたように思います。引き続き行われた活動報告会では、感謝状の贈呈と、新担当者の吉田さんへの引継ぎ式が行われました。ぶれいす東京の「中興の祖」おつかれさまでした。

毎年恒例となった活動報告会では、今年もリレー方式の部門報告が行われ、多様なメンバーにより多彩な活動のほんの一端が紹介されました。一年の活動を数分で報告するという至難の業にチャレンジする報告者のほど良い緊張感もあり、活動の全容に初めて触れる参加者もいて、ぶれいす東京らしいライブ感あふれた会となりました。



総会にて：代表の池上（左）と運営委員長の生島

活動報告会は、一年の総決算であると同時に、その時代を反映し社会が直面する課題や活動の方向性を示す機会でもあります。今年は、自らが薬物・アルコール依存症、摂食障害からの回復者であり、回復プログラム、自助グループを実践し続けている「ダルク女性ハウス」代表の上岡陽江さんと、その仲間の皆さんにお話を伺いました。二重三重の孤立と悪循環によるアディクション（依存症）の問題が、エネルギーに満ちていてかつ軽快な調子で語られ、ある種の衝撃をもって会場に受け止められたのではないのでしょうか。私たちはなぜ寂しいかー緊張感の高い家庭環境、暴力被害、「応援団のない状態」や、そのことがもたらす孤立と依存の連鎖をわかりやすくお話いただきました。ダルクの回復プログラムの中で、応援団を再構築していくこと、安全な距離感を保ちながら人間関係を築く練習をすること、身体感覚を取り戻し痛み数十年ぶりに反応する自分の体と付き合うこと、自分の言葉でしゃべれるようになること、そういった回復の過程がリアルにそれぞれのマイ

ヒストリーとして語られたのでした。

HIVの話が、ウィルスの話ではなく人間の話であるように、薬物依存の話は薬物の話ではなく、実は「寂しいと感じる人間」の話でした。そのことを語る当事者の力と、共感する多くの顔を見て、今後の活動のヒントと方向性を得た活動報告会となったのではないのでしょうか。（文責：矢島 嵩）

参加者感想文

「一粒で三度おいしい活動報告会」 かじよしみ

私はぶれいすとは、その創立以前から(?)の、長~いおつきあいで、現在は、ささやかに年10日ほど稼働で、新規陽性者のグループ「PGM」のお手伝いをさせていただいております。活動報告会に欠かさず参加させていただくようになったのは、ここ3年ほどのことです。そしてすっぴりはまりました。この活動報告会に来ることで、ぶれいす全体の活動が見渡せ、ゲストスピーカーのお話でHIV/AIDSとその他の社会問題の接点についての認識が深められ、また、終了後の懇親会では、「あら、今年もお会いできましたね。お元気でしたか?」と、たなばた様のように1年に1回しか会わない旧友ボランティア仲間とも会えるし、なんか私にとっては、「一粒で三度おいしい」活動報告会です。

特に、「こんな活動があったらいいのにね。」と夢物語のように話していたことが、数年たって、ほんとうにすてきに実現しているのをお聞きすると、「カフェ・ネスト」とか、自分は口ばかりで、全然お手伝いしなかったのに、我が事のようにうれしいです。

あと、参加するたびに、「若い人が増えているな~」と感じてうれしく思っていたんですが、これは実は、単に自分が年取って来ているからかも(笑)。

しばらくご無沙汰していらっしやるベテランの皆様も、来年はぜひ活動報告会で、お会いしましょうね!

「年間活動報告会に参加して」

厚生労働省 健康局疾病対策課 上野直樹

今回ぶれいす東京様の年間活動報告に参加させていただき、HIVやエイズ等に関して様々な方々が多様な方法により、取り組みがなされておられることに非常に感心したのと同時に、現場での相談や多角的な調査など非常に大変なことであることをあらためて感じさせられました。

活動報告の中で、若い世代のボランティア等の参加が滞っており、相談等において、若い世代の方に対して苦勞されておること何かが私がお手伝いできることはないか等を感じた次第です。

また、ダルク女性ハウスの上岡陽江様の壮絶な人生のお話、また、現在、その経験を活かされて依存症の方々への相談等の活動をされていること等については、とても感心し、感動しました。

厚生労働省では、昨年
から HIV 検査普及
週間(6月1日~7日)
を設定し、週中は
HIV・エイズに関する
普及啓発活動を強化
し、実施しておりま
す。今年も、東京、名
古屋、大阪でイベント
を実施し、私自身、非
常に苦勞をしましたが、NGOやボランティア団体等のご協
力により、効果的なHIV等に関する普及啓発活動ができ、非
常にうれしく思っております。



ダルク女性ハウスの上岡陽江さん

私は、今回の活動報告や自分の業務を通じて、少しでも多
くの方々が幸せに感じられる世の中になるよう、精一杯、取
り組んで行きたいと強く感じました。

「ピアとは」

カーワン

「ピアではなくなった」^ぶ PEPのトモコさんが総会で
発した言葉だ。胸に深く突き刺さった。^ぶ PEPはおもに
ティーンを対象に予防啓発活動をしている。スタッフに物理
的な年齢制限はない。しかしながら、いくら気持ちが若くて
も子どもたちにピアと認められなければその資格はない。ピ
アとは同等、対等な人、仲間といった意味だ。寄り添えるか
らこそできる活動なのだ。教えるんじゃない、受け入れても
らうんだ。

かつて尾崎豊は僕にとってピアだった。彼の言葉にしび
れ、共感し、生きる力をもらった。しかし、ある日突然彼は
ピアでなくなった。「先生のいいなりなんかなるなよ」命令
に感じた。あれはイケナイ、これもイケナイ、こうしなさい。
そこら中にいる大人と同じだ。そう感じた。「俺はこう思う。
だからそうするんだ」共感する仲間だと思っていたのに、そ
の日から尾崎はピアではなくなった。

そして今、僕はあの頃想像出来なかった大人の年齢になっ

た。今ではわかる。大人とはこういうものなのだ。ピアと
はなんだろう。共感するだけではダメだ。寄り添うだけでも
ダメだ。相手の信頼を獲得してこそその関係なのだ。僕は今
ホットラインを担当している。はたして僕はピアになれてい
るだろうか。

「真の“一体感”ある報告会」

グラクソ・スミスクライン 患者支援対策課 遠藤 永子
活動されている一人一人の「熱意」、いろいろな立場から
「真の思い」が心に伝わってくる報告会でした！

実際担当したボランティアの方々から直接報告されたこと
から、とてもわかりやすく心に響くばかりでなく、皆でその
成果を祝福できる場となっており、活動を超えた自然な一体
感が生まれていると感じました。このような一体感は
真の熱い思いがあるからこそ、であり、確実に次年度へのス
テップ・アップにも繋がっていると感じました。

また全報告を通して、「誰かに相談したくても相談できず
に孤立している人が想像以上に多いこと、そしてそのような
人たちへの精神的なサポート、情報提供のサポートがどんな
に大切であるか！」を、共通のメッセージとして、受け取り
ました。HIV感染症について国民一人一人が正しい知識を持
ち、偏見のない視点を養い、自然に支援者になっている、と
いう社会作りに貢献していかなければ、と強く思います。

そして製薬企業としても、「生きる喜びを、もっと」と
いう使命感のもと、
共有目標をもった真
のアドボカシー活動
を協働できる関係づ
くりを努めてまいり
たいと思いますので、
今後とも宜しくお願
い致します。



今年も満員の会場

アースデイ

世界各地で持続可能な社会を表現する4月22日のアースデイ"地球の日"。日本でも様々なイベントやアクションが行
われおり、^ぶ PEPは、4月21日、22日の両日、代々木公園にて「THINK!!エイズ・ビレッジ」の一員としてブース
参加をしました。

毎年、数万人が来場する、日本最大級の環境について考え
るイベント「アースデイ東京2007」(4月21日(土)・22
日(日))に、「THINK!!エイズ・ビレッジ」の一員として、
参加しました。場所はパレードでもおなじみの代々木公園
で、私たちのスペースは歩道橋のすぐ近くでした。両日とも
に雨は降らなかったものの、強風対策に気をつかいながらの
出展となりました。

アースデイにエイズ?と思う方もいるでしょう。しかし、
アースデイのHPにも、「環境問題は、人と生物、地球、人
と人のコミュニケーション問題ともいえます。そして私たち

はだれも、この地球と100%関わり、家族や友人との間柄
にも似た不可分の関係を持っています。」とあって、HIV/
AIDSについても例外ではなく、それに、普段HIV/AIDSに
強い関心をもたない方々へのアプローチができる絶好の機会
となりました。

出展内容は、以下のとおりです。

視覚化した参加型アンケート

かよちゃんがかわいくPOPなデザインのボードに仕上げ
てくれました。パステルカラーの Condom のぬいぐるみで

さらにキュートな印象に。回答者には、POPTTEENコンドームとSexual Health BOOKをプレゼントしました。

多種多様なコンドームの実物展示

サイズごと、キャラクターもの、香りつき、ローションたっぷり、ポリウレタン製のもの...などを展示。全部触ることができま



ブースの中にはいろいろなコンドームや手記集。手に取ってみることができる。

す。希望者には正しい装着方法をレクチャーしました。ここへ来てくれた方は、興味はあるけどなかなか自ら触ることができないので、まず、私は、ゼリーを使っていないパウダーコンドームを触ってもらいました。これは、手がべたつくのがイヤな人向けのものでさらさらしているのです。べたつかないコンドームは珍しいし抵抗がなくなるせいかよく触ってくれる。これをきっかけに、逆にゼリー4倍の潤うタイプやら、香りつきやら、ゴムじゃないポリウレタン製やらも触ってもらいながら会話を弾ませました。

セクシュアルヘルスやHIV/AIDSについての書籍、パンフレットの展示

ティーンズクリニックのときにも展示した、若者向けの読みやすくデザインが素敵なものを中心に展示しました。セクシュアルヘルスに直接的な関係はありませんが、ぷPEPメンバーやティーンズクリニックで人気の高かった、蜷川実花の写真集を閲覧用として展示。(女の子がポジティブにとっても可愛いのです。)

アンケート詳細

<回答方法>

それぞれの質問と選択肢をA2サイズのボードに記載。当てはまる選択肢にシールを貼ってもらう。



POPなデザインの参加型アンケートのボード

シールは性別で色分けする。(女 赤、男 青、どちらでもない 黄、緑、白)

<実施結果>

回答者数：368名(2日間合計)
年代：10代～60代(と思われる年代)が回答。
メインは、10代後半～30代と思われる。

Q1. 相手からコンドームを使おうと言われたら？

	女	男	どちらでもない	合計
うれしい	118 74.2%	69 45.1%	11 45.8%	198 58.9%
何とも思わない	38 23.9%	78 51.0%	11 45.8%	127 37.8%
ひく	3 1.9%	6 3.9%	2 8.3%	11 3.3%
性別ごと回答数：比率	159 47.3%	153 45.5%	24 7.1%	363 100.0%

Q2. コンドームを自分で買ったことある？

	女	男	どちらでもない	合計
ある	93 57.4%	143 76.1%	13 72.2%	249 67.7%
ない	64 39.5%	41 21.8%	4 22.2%	109 29.6%
必要ない	5 3.1%	4 2.1%	1 5.6%	10 2.7%
性別ごと回答数：比率	162 44.0%	188 51.1%	18 4.9%	368 100.0%

感想

エコを入り口にしたイベントだったので、どれだけの方が足を運んでくれるかと不安もありましたが、結果的に来場者数が予想をはるかに上回り、プレゼント用の「POPTTEENコンドーム」が1日目で



予想以上に来場者と会話がはずみ、ぷPEPメンバーもがぜんやる気に！

ほとんどなくなるアクシデントも。急遽2日目用に「Safer Sex Guide for women」を用意して難を逃れました。おそらく、コンドームを前面にだし、実物を直接見て触れる企画はエイズビレッジ内でもぶれいす東京だけで、つまり、アースデイの中でも唯一の展示になったのが勝因でしょうか。

来場者とコミュニケーションをとる中で、彼らのセクシュアルヘルスについての興味や情報に対するニーズを強く感じました。また、アンケート結果をみても、私たちの予想以上にコンドームについてポジティブな意識と行動が(特に女性から)うかがえました。この2日間の経験をこれからの活動にしっかり反映させていきたいと思います。(とまこ)

ステージが近く、代々木公園のはらっぱに続く階段近くにあったぷPEPブースは、一日中まったりとぎわっていましたが木の板にカラフルな絵の具で描いたアンケート・ボードに赤ちゃんからお年寄りまで興味深々。実に様々な人達に答えてもらいました。奥に設置したコンドーム展示ではコンドーム片手に普段なかなか喋れない話題に花が咲き...

ステージアピールでは「世界一身近な環境、自分のからだを考えよう！」と、じっつーと共にアピール。絶妙なハイテンションで挑んだ結果、客席の関心を寄せることができたと思います！腰につけたコンドーム風船を司会者につっこまれた時、客席の「えっ!？」という反応がわすれられません。環境を考えるイベントだけあって、来場者みんなオープンな雰囲気でした。ブースに来た一人ひとりにゆったり接することができ充実した時間でした。(かよこ)

ネストより

6月7日にWomen's Salon「Dr. 対馬ルリ子と話そう Part2」が参加者5名で開催されました。2005年の「Dr. 対馬ルリ子と話そう」(1回目)、2006年の「陽性告知を受けてからの出会いと結婚」、「川名奈央子さんと話そう」に続いて、第4回目のWomen's Salon開催となりました。

第4回Women's Salon「Dr. 対馬ルリ子と話そう Part2」は、池上さんの進行のもと、対馬さんからまず、自己紹介を兼ねて女性専門外来クリニックを開くにいたった経緯を話していただきました。そのあと、5名の参加者から聞きたいこととして上がった、セーフターセックス、妊娠・出産、高齢出産、プチ更年期などについて、ひとつひとつ、ていねいに話していただきました。からだの仕組みや妊娠・出産については前回も話していただきましたが、またちがった切り口で、新たな発見がありました。対馬さんの説明はとてもわかりやすく、質問しやすい雰囲気に参加者からもまた、さらに質問がでて、たのしく充実した学習会でした。

会が終わったあとは交流タイム。初めての方もいらっしゃいましたが、話が盛り上がり、楽しそうでした。平日の夜であり時間がとれなかったため、まだまだ話したりないうちにお開きの時間となったのでした。(はらだ)

参加者感想文

対馬先生のお話に前回に引き続いて参加しました。女性の体の仕組みのおさらい、踏み込んだセーフターセックスの方法や、生活で気をつけたいこと(冷えが与える影響など)他、病気の事に限らずこだわらず、色んな方面にも話が展開して面白かったです。

私は将来結婚や出産もしたいと思っているので、子供の作り方(!)のお話が聞けたのは収穫でした。また、前回もそうでしたが、会が終わった後も参加者が残って色々情報交換したり話がつきないので、初めての女性が参加しやすい会だと思います。(はちみつ)

感染を知ってからまだ日も浅く、他の女性陽性者にお会いする機会がなかったので、今回のWomen's Salonで色々なバックグラウンドを持った方々とお話ができるとても嬉しく、楽しい時間を過ごすことができました。

対馬ルリ子先生には、女性の体の基本的仕組みからHIV陽性者として妊娠・出産の際の注意点等に至るまでお話を伺いすることが出来ました。専門家の方と(診察以外で)じっくりとお話できる貴重な機会だけにここぞとばかりに質問をさせて頂き、体に関する疑問がすっきりと解消できました。対馬先生ありがとうございました。

会が終わって強く思ったことは、「女性の体ってなんて素晴らしいんだろう! 体をもっと大事にしよう!」ということです。病気のこと云々の前に、体の仕組みのすごさに感動しました。それから、先生、池上さん、パートナーがいらっしゃる陽性者の方々のお話を伺って、恋愛や結婚に前向きになることができました。最近、「自分には恋愛や結婚、ましてや出産をする資格はないのでは」とあきらめ気味でしたので、参加して本当によかったです。

対馬先生、池上様、はらだ様、そしてぶれいす東京の皆さま、素敵な会を開いてくださってありがとうございました。次回のWomen's Salonを楽しみにしています!(あんず)



対馬ルリ子さん(右)と池上代表

NLGR

名古屋のHIV/AIDS啓発イベント「Lycée NLGR (Nagoya Lesbian & Gay Revolution)」が、6月2日-3日の2日間開催されました。ぶれいす東京Gay Friends for AIDSはブース展示を行い、各種冊子を配布する形で参加しました。

今年のテーマは「学ぶ」。初夏の空の下での“学園祭”は穏やかな時間の中で進みました。自分は初めてこのイベントに参加したのですが、終始緊張するのがなと思いきや、名古屋の自由な雰囲気がだんだん和ませてくれました。

今年のぶれいすブースは各種冊子の配布や閲覧資料などで対応しました。男女問わず資料に目を通す姿も見受けられ、「教えるために使いたい」という医療従事者の方もいらっしゃいました。

「You Raise Me Up」の中、暮れていく空にサイリウムが光る中での追悼の儀式の美しさ、そしてNLGRといえば翌日に行われた同性結婚式、今年は尾辻かな子さんが式を挙げられるとあり、メディアの姿も多く見られました。祝電は思わず声が上がるといふ方々からも寄せられていました。そしてあの場所に1000人も人が集まって2組の女性カップルが祝福されたことに感極まってしまいました。

なお、今年は539人がHIV抗体検査を受けられたとのこ

とです。それだけ関心の高さがうかがえた2日間でした。

今回自分はイベントに初めて参加でしたが、関係者の皆様の多大なる力がなければできなかったこともありました。この場を借りまして、ANGEL LIFE NAGOYAの皆様、NLGRに携わったすべての皆様に感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。(報告:あお)



NLGR恒例となった結婚式。今年は参議院議員候補となった尾辻かな子さん(左)木村さんのカップルも。

活動報告他(2007年4～6月)

各部門より

ホットライン

エイズ電話相談(ふれいす東京および東京都委託)

ホットライン・ミーティング他活動状況()内は出席人数

4月	8日	追加HL部門別研修(第2日)(7名+研修生3名)
	13日	東京都電話相談連絡会(2名)
	15日	スタッフミーティング(19名) 有志昼食会(11名)
5月	11日	東京都電話相談連絡会(2名)
	20日	世話人会(4名) スタッフミーティング(17名) 有志昼食会(15名)
	26日	ふれいす東京/活動報告会(9名)
6月	8日	東京都電話相談連絡会(2名)
	17日	世話人会(4名) スタッフミーティング(20名) 有志昼食会(8名)
	23日	臨時世話人会(8名)

相談実績報告

ふれいす東京エイズ電話相談

	4月	5月	6月
日数(日)	5	4	4
総時間(時間)	20	16	16
相談員数(のべ人)	5.5	4.5	4.5
相談件数(件)	53	44	38
うち(男性)	47	34	33
(女性)	6	10	5
(不明)	0	0	0
(陽性者)	0	0	2
1日平均(件)	10.6	11.0	9.5

東京都夜間・休日エイズ電話相談(委託)

	4月	5月	6月
日数(日)	13	12	14
総時間(時間)	39	36	42
相談員数(のべ人)	30.5	29.5	36.5
相談件数(件)	227	212	286
うち(男性)	188	187	215
(女性)	39	24	69
(不明)	0	1	2
(陽性者)	0	2	2
1日平均(件)	17.5	17.7	20.4

*コメント

4月～6月の相談件数は、ふれいす東京と東京都共に少し低調でした。しかし不安障害領域と思われる方からの相談や、内容として難しいケースもありました。検査関係の相談は、かなりのウエイトを占めています。また6月は全国的にHIV検査普及週間、東京都は検査普及月間をしたため、マスコミ等への露出が増え、相談件数にも影響した様です。(報告:佐藤)

ふ☆PEP

若者による若者のための予防啓発活動

ミーティング・その他活動()内はふ PEP参加人数

4月	12日	ふぉー・ていー説明会参加(1名)
	13日	アースデーミーティング(7名)
	19日	ふれいす東京委員会(1名)
	21日	アースデー・ブース展示(6名)
	22日	アースデー・ブース展示(4名)
	26日	アースデー反省会(5名)
5月	17日	ふれいす東京委員会(1名)
	26日	ふれいす東京活動報告会(2名)
6月	特になし	

アースデー

4月21日、22日の2日間、アースデー東京2007が開催されました。“環境”をテーマに開催されているイベントですが、森林伐採や地球温暖化等の問題だけでなく、動物実験、佐渡島のトキ、原発、HIV/AIDSなど、様々なテーマが混在していました。代々木公園で行われたアースガーデンに参加したが PEPの活動の詳細については、特集がくまれていますので、3ページをご覧ください。

“ふぉー・ていー”オープンしました!!

東京都が運営するHIV/AIDS情報ラウンジ、ふぉー・ていーがオープンしました。ふぉー・ていーとは、“東京都(Tokyo)の、10代(Teen)からの、若者のために(FOR)、エイズ/性感染症予防に取り組む”という意味があり、2007年6月から2008年3月まで、期間限定で池袋保健所1階のAIDS知ろう館内に開設されます。館内にはHIV/AIDS、STIに関する書籍が置いてあり(一部貸出し可能)会議室は勉強会、展示会、ワークショップなど、多目的で使用することができます。

ふ PEPでも、いくつか企画を応募し、現在のところ、検査に関するワークショップやパネル製作、また、25歳以上の女性を対象にしたセルフエスティーム/肯定的な身体イメージをテーマにしたワークショップが実施予定となっています。それらのふりかえりについては、次回以降のニュースレターで報告したいと思っています。

ふぉー・ていー <http://www.4tweb.com/>

(報告:じっつー)

ボディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

ボディ担当者ミーティング参加スタッフ数

(第1木曜11:00～第3木曜18:30～)			
4/5	4人	4/19	4人
5/3	2人	5/17	3人
6/7	2人	6/21	3人
その他個別のミーティング 6件			

利用者数

8カ所の病院に通院中、もしくは入院中の20名の方ののべ23名のボディスタッフを派遣

活動内容 (2007年6月末現在)

派遣継続中	20件
在宅訪問	13件
病室訪問	2件
在宅の電話のみ	2件
派遣休止	3件

4月～6月の新規派遣依頼 1件

4月～6月の派遣調整 3件

パディの現場から

3月のぶれいす東京のお花見に、数名の利用者の参加予定があったのですが、今年は残念ながら雨で中止になってしまいました。来年こそはぜひとも参加していただければと思います。

5月に新規派遣が1件ありました。子供の見守りという依頼で、今回は1回だけの活動となりました。また、派遣調整が3件ありました。すでに派遣中の所で、担当者の交代を行いました。調整は無事終了し、すでに新しい担当パディの派遣がはじまっています。

こしばらく、ミーティングへの参加が寂しいところです。担当を持っている方は、ミーティングへの参加をできるだけお願いします。(報告: 牧原)

ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)*ファシリテーターなど)	
4月	25日	255名	(8名)	(6名)
5月	24日	205名	(12名)	(9名)
6月	27日	321名	(14名)	(15名)

(*はファシリテーター、web NEST 運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

カフェ・ネスト

4月/4回:40名、5月/5回:51名、6月/4回:59名

ピア・グループ・ミーティング (PGM)

- ・新陽性者 PGM 第33期 (参加者5名) 4/12 4/26 (修了)
- ・新陽性者 PGM 第34期 (参加者7名)
4/28 5/19 6/2 6/16 (修了)
- ・新陽性者 PGM 第35期 (参加者5名) 6/14 6/28
- ・陰性パートナー・ミーティング
4/14 (4名) 5/12 (3名) 6/9 (4名)
- ・ミドル・ミーティング
4/14 (15名) 5/12 (13名) 6/9 (13名)
- ・もめんの会 4/24 (3名)
- ・Women's Salon 第4回「Dr.対馬ルリ子と話そう Part2」
6/7 (5名) ゲスト: 対馬ルリ子さん (ウィミンズ・ウェルネス 銀座クリニック院長)
- ・カップル交流会 6/24 (8名)

学習会 / イベント

- ・ストレス・マネジメント講座 1 5/28 (7名)
- ・ストレス・マネジメント講座 2 6/25 (7名)

ミーティング (陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

- ・新陽性者 PGM ファシリテーター・ミーティング
5/10 (6、7)
- ・web NEST 運営委員会
4/17 (1、2) 5/15 (2、2) 6/26 (3、2)

ネスト・ニュースレター

4/17 4月号発行、5/15 5月号発行、6/11 6月号発行

カフェ・ネストが1周年を迎えました

昨年5月にボランティア・スタッフ2名の協力を得てスタートしたカフェ・ネストが1周年を迎えました。カフェ・ネストが認知されるまで、ネストを利用する方にも戸惑いが見えたり、スタッフのお二人にも大変なことがあったと思いま



すが、口コミで少しずつ伝わり、今では初めての方も「楽しみにしていた」とおっしゃる方が多いようです。詳しくは2006年度の活動報告書をお読みください。(報告: はらだ)

Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動

<http://gf.ptokyo.com>

Gay Friends for AIDS 電話相談

4月 8件 (平均2.0件) 5月 10件 (平均2.5件)
6月 11件 (平均2.2件)

NLGR にブースを出展

6月2日(土)・3日(日)の二日間にわたって名古屋で開催されたNLGRに今年もブースを出展し、資料の配布などを行いました。イベントのレポートは5ページをご覧ください。

「OUR DAYS展」開催

8月14日(火)～24日(金)まで、新宿二丁目コミュニティセンター aktaにて「OUR DAYS展」を開催。イベントレポートは次号にてお届けします。この企画のミーティングで出て来たアイデアから、次の展示イベントの企画検討も始まっています。(12月開催予定/詳細はWebにて) (報告: sakura)

HIV陽性者への相談サービス

相談実績 2007年4～6月

2007年	4月	5月	6月
電話による相談	71	66	83
対面による相談	58	50	72
E-mailによる相談等	38	50	92
うち新規相談	10	20	19

メール新規は含まず

4～6月新規相談者の属性 (N=49)

陽性者: 39人 (男性: 38 女性: 1)
 確認検査前: 3人 (男性: 2 女性: 1)
 パートナ(元): 2人 (男性: 1 女性: 1)
 家族: 4人 (男性: 0 女性: 4)
 友人・知人: 1人 (男性: 1 女性: 0)

4～6月新規相談者の情報源 (N=49)

WEB (携帯含): 21、陽性者の知人: 6、以前から知っていた: 4、検査所/保健所: 3、医療従事者: 3、電話相談: 3、家族: 2、本・パンフレット: 2、不明: 2、パートナー: 1、友達: 1、行政職員: 1

4～6月の新規相談内容

【ミーティング参加等】

- ・PGMに参加しようかと迷っている。(都内)
- ・人間関係を広げたいと思い、ネストに来てみた。
- ・入院中に夫の感染が判明。パートナーミーティングに参加したい。

- ・以前名前を知っていたぶれいす東京を携帯サイトでみて連絡しました。

【検査や告知後】

- ・元彼から感染を知らされ、自分も検査を受けたら陽性だった。
- ・今日、保健所にて告知を受けた。これからのことを知りたい。
- ・在宅検査キットで陽性だった。結果には、速やかに病院にて確認するようにという案内のみだった。
- ・肝臓瘍で感染がわかる、入院中の病棟から電話。
- ・他疾患の担当医の一言、「一番怖いのはHIVだけでもね」が気になり、自発検査で陽性を確認。
- ・入院中に抗体検査を受けたが、検査結果は結果が出た数日遅れで告知。このことで医療不信に。
- ・婦人科の術前検査で判定保留であった。今後のことを考えると不安。
- ・体調不良があり検査を受けたら陽性。セーファーセックスをしていたので納得ができない。
- ・性感染症の治療中に受けた検査で陽性。保健所にいき再度検査を受け確認した。
- ・友達と受けた献血で陽性とわかる。
- ・今日、即日検査で判定保留だった。とても混乱している。
- ・知人から陽性であることを知らされ、自分も検査を受けたら陽性だった。半年に一度くらい定期的に検査を受けていたのに。
- ・一週間前に保健所で告知。実感が無いという気持ちと、認めたくない気持ちが混在している。

【人間関係】

- ・息子が服薬開始時期になって混乱している。どうしたらいいだろう。
- ・兄弟の様子をみて、異変を感じ本人を問いつめたところ、感染を知らされた。
- ・手術前の検査で陽性。自分はバイセクシュアル。家族にも知らせた。
- ・息子から感染を知らされたが、なかなか受け入れ難い。自分で整理するしかないと思っている。
- ・感染したことを自分は冷静に受け止めているが、最近つきあい始めた彼氏を相談につれていきたい。
- ・姉妹が陽性者なのだが、テレビで介護中に感染した子供の事例がでてきて不安になった。
- ・自分は60代なのだが、最近、彼氏ができたのだが、なかなか相手に感染を告げられない。
- ・WEBで知り合った知人の様子が変だった。聞いてみると感染がわかったばかりらしい。紹介したい。

【医療など】

- ・水疱瘡のようなものができて、带状疱疹ではないかと不安。
- ・都内の拠点病院の外科系で手術はできないと言われた。
- ・体調不良から検査をしたら陽性だった。すぐに治療にはいる予定だがいろいろ聞きたい。
- ・他にも難病があるのだが、医療従事者への不信感が拭えない。
- ・3年前に最初に通院した病院の対応がひどく一年間は未通院だった。

【生活や福祉】

- ・生命保険。税金の控除について知りたい。
- ・障害者控除を確定申告した。給与明細の住民税等の控除の障害者欄に印がついていた。
- ・HIV陽性者が加入できる生命保険はないか。
- ・外国籍、皮膚科で感染が判明した。今後の自分の生活について相談したい。
- ・家を買いたいのだが、住宅ローンについてどうしたらいいか。
- ・親の健保に加入しているのだが、情報はどのように伝わる可能性があるのか。
- ・医師や病院スタッフの支援に満足できない。引きこもり状態。

【就労】

- ・身体をつかうサービス業で未服薬だが、身体が結構しんどい。仕事ができなくなったらどうなる。
- ・服薬を開始したのだが、就労継続が難しく、経済的に困難な状況に。
- ・仕事を紹介して欲しい。この病気のことを知って、働きにくいと思っている。
- ・今日、保健所で告知を受けてきた。失業中で、これからのことが不安。
- ・職場の仲間に告知をしたら配置転換になったことがある。
- ・フリーターで親の国保に加入。経済的なことが心配。

【セーファーセックス】

- ・パートナーが亡くなり、ずいぶん経つ。最近付き合う相手ができなかったが、感染させないかと不安。
- ・最近、彼氏が陽性だった。どのような行為までOKなのかを知りたい。ゴム無しの行為もあった。

(報告：牧原 / 福原 / 生島)

研究部門

厚生労働省 厚生労働科学研究

「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」(2006年度から)

大阪府立大学の東優子さんが主任研究者となって行われている研究で、2006年度からの継続研究として、今年度も池上と生島が参加しています。

(報告：吉田)

エイズ予防財団「エイズ予防のための戦略研究」への協力

東京及び阪神地区での相談体制の強化

昨年度より、名古屋市立大学の市川誠一氏申請による「首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象としたHIV抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究」に生島が研究協力者として参加。主に阪神圏のMSM向けの相談機能を阪神圏に設置、首都圏においては、ぶれいす東京の相談機能を強化することを分担しています。

(報告：生島)

編集後記

- ・結婚してようがいまいが～、というコピーに惹かれ「おひとりさまの老後(上野千鶴子)」という本を読んだ。将来も気になるけど、今を生きる大切さも再認識した夏！ (こんどう)
- ・ぶれいすの事務所は、場所によって温度差がスゴイけれど、人によって体感温度もこんなに違う！さっきから汗だくで編集の追い込みをしているのだけれども、これって冷や汗？ (やじま)
- ・今年の夏が終わろうとしている。この時期こそ、心身面のセルフケア(ギアチェンジ)をしなくては。(いくしま)

編集・発行：特定非営利活動法人 ぶれいす東京
 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス304
 TEL：03-3361-8964(月-金 12:00～19:00)
 FAX：03-3361-8835
 E-mail：info@ptokyo.com
 ぶれいす東京HP：http://www.ptokyo.com/
 Gay Friends for AIDS：http://gf.ptokyo.com/
 web NEST：http://web-nest.ptokyo.com/
 Sexual Health：http://shw.ptokyo.com